

Keiba Global Front Line



競馬グローバル・フロントライン

競馬の最前線で活躍する馬や人をご紹介します

合田 直弘

5月24日にカラ競馬場で行われたG1愛二千ギニー(芝8F)を3/4馬身差で快勝したフィールドオヴゴールド(牡3、父キングマン)が、今月のこのコラムの主役だ。

愛国産馬で、叔父にG1イスパハン賞(芝1850m)勝ち馬ザビールプリンス、従姉妹にG1コロネーションS(芝7F213y)など2つのG1を制したリジーナがいるというファミリーを背景に持つ同馬。当歳秋にゴフスノヴェンバー当歳市場に上場されたところ、ジャドモントファームスに53万ユーロ(当時のレートで約7732万円)で購買され、ニューマーケットを拠点とするジョン&セイディ・ゴスデン厩舎の一員となった。

デビューしたのは2歳の6月で、ドンカスターのノーヴィス(芝7F)に出走して2着に敗れた後、2戦目となったニューマーケットのメイドン(芝7F)を3/4馬身差で制して、デビュー2戦目で初勝利。続いて出走したのがサンダウンのG3ソフリオS(芝7F)で、同馬はこも勝って、重賞初制覇を果たした。2歳最終戦となったのが、パリロンシャンで行われたG1ジャンルクラガルデル賞(芝1400m)で、2番人氣に推されたフィールドオヴゴールドは、勝ち馬カミュービサロに2、1/4馬身及ばぬ4着に敗れて、昨シーズンのキャンペーンを終えている。

同馬の今季初戦となったのが、4月16日にニューマーケットで行われたG3クレイヴンS(芝8F)で、フィールドオヴゴールドはこを3、1/2馬身差で快勝。本番と同じコース・同じ距離の前哨戦を楽勝したことで、5月3日のニューマーケットで行われた3歳3冠初戦のG1二千ギニー(芝8F)で、同馬はオッズ2、875倍の1番人氣に支持されることになった。11頭立てとなった二千ギニーで、フィールドオヴゴールドは10番手に待機。鞍上キーラン・シユーマークは残り350m付近から馬場大外に進路を切り換え、そこからスパート。その末脚は際立っていたが、早めに抜け出していたルーリングコートを1/2馬身捉えることが出来ず、フィールドオヴゴールドは悔しい2着に終わることになった。

J・ゴスデン調教師から、シユーマークを厩舎の主戦騎手の座から降ろすという発表が行われたのが、その4日後のことだった。23年までゴスデン厩舎の主戦を務めたフランキー・デトリーが、米国に移籍した後、24年から後釜に収まったのがシユーマークだ。24年のシユーマークは、自身初めての年間100勝をマーク。フレンドリーソウルで制したG1オベラ賞(芝2000m)を含めて、ゴスデン厩舎の管理馬で6重賞を手中にしている。まずまずの成績をあげていたように見えるが、ゴスデン

師の中では物足りない思いがあったようだ。二千ギニーにおける騎乗を、仕掛けが明らかに遅れた騎乗ミスと見たゴスデン師は、非情な決断を下すことになった。新たな主戦はおかず、体の空いている騎手から最良の選択をするという方針も明らかになった。

5月24日のG1愛二千ギニーでフィールドオヴゴールドの鞍上に指名されたのは、愛国のトップ騎手コリン・キーンだった。前半は9頭立ての7番手を追走したフィールドオヴゴールドは、残り500mで鞍上が仕掛けると鋭く反応。残り300mで先頭に立つと、そこから3、3/4馬身抜け出す快勝で、待望のクラシック制覇を成し遂げた。また、父キングマンは14年の愛二千ギニー勝ち馬だから、父仔制覇の記録も達成されたことになった。

同馬の次走は、14年の父同様に、ロイヤルアスコット初日のG1セントジエームスバレスS(芝7F213y)になる予定。その一方で、10Fの距離にも対応出来るとの見方もあり、例えば、7月5日にサンダウンで行われるG1エクリプスS(芝9F209y)へ向けた前売りでも、同馬はオッズ2、25〜3、0倍の1番人氣に推されている。

素質溢れる若駒フィールドオヴゴールドの今後に注目したい。